

善教寺宝物

布岳「四極山新道図」

解 読 矢 野 德 彌
書き下し 鶴 野 博文

四極山下道
東從菌苔通
行旅點々影
橋梁處々虹
邨落連邇迤
隧道穿穹窿
碧波北臨海
翠螺南攢眞
聖古佛名白
霞綴龍龕紅
行々三十里
無地不玲瓏
想昔一法師
：大友能直

四極（高崎山）山下の道
東は菌苔かんだんよ從り通ず
行旅点々（要所）を影け
橋梁処々に虹す
邨落連なること邇迤りい（くねって）たり
隧道は穹窿きゆうりゆう（弓形）を穿つ
碧波は北、海に臨み
翠螺すいろう（遠くの山）は南、真に攢あつまる
聖かてりつち（しろつち）の古仏、名づけて白すに
「霞綴龍龕紅」と
行々すること三十里
玲瓏れいろう（あざやか）たらざる地無し
昔を想うに一法師、
：大友能直（初代）

系本源佐公
奕葉二十二
大名肥筑豊
具簡賜錦旗
：大友貞貞
鷹房陷韓宮
：大友義統
菊池已滅族
：菊池武経
橘山永占雄
：大友貞載
乃孫豈無勇
天運奈替隆
玉今山上空
唯氣尚葱々
念尋濱湧勝
須問早吸翁
湛々弦月池
靈液沸不窮
神農嘗草木

系は源佐公（頼朝）に出ず
奕葉えきよう（代々）二十二
肥・筑・豊の大名たり
具簡ぐかん（貞宗法名）錦旗を賜い、
：大友貞宗（六代）
鷹房（幼名）韓宮を陷す（朝鮮の役）
：大友義統（二十二代）
菊池已すでに族を滅し、
：菊池武経（二十代義鑑弟義武）
橘山たちやま（筑前）に永く雄を占む
：大友貞載（六代貞宗一男）
乃孫ないそん（子孫）なれば豈あに勇なからんや
天運てんうんの隆替りやうたい（盛衰）を奈いかんせん
玉、今山上に空しきも
唯氣なごき尚葱々しやうそうさ（しげる）たり
浜湧はまうの勝を尋ねんと念おもはず
須すべからくはやすい早吸翁はやすいおに問うべし
湛々たんたんたり弦月げんげつの池（温泉）
靈液れいりやく沸わきて窮まならず
神農しんのうは草木を嘗なめ

仲景論寒風

未知温泉靈

能奏天然功

老跛足已履

偃僕背心馳

所以浴沂客

蝟集寸西東

維歲之壬午

我來寄病躬

靈池早熟于

奇景更入瞳

徜徉山下道

春花又穠楓

鬻影認蟹戶

牛背逢樵童

操毫写所見

何曾論異同

賦詩陳其情

且欲記始終

詩圖在補闕

仲景寒風を論ずれども

未だ温泉の靈を知らず

能く天然の功を奏し

老の跛足(なえあし) 已に履み

偃僕(かがまる) の背応に馳すべきは

客を沂(温泉) に浴せしむる所以にして

寸に西東(の湯) に蝟集(群集) す

維歲壬午(明治十五年)

我病軀を寄せ来る

靈池(温泉) 早くも于に熟え

奇景更に瞳に入る

徜徉す山下の道

春は花また秋は楓なり

鬻影(魚網) 蟹戸(海人の家) を認め

牛の背の樵童と逢う

毫(筆) を操り見る処を写す

何をか異同を論ぜんや

詩を賦し其の情を陳べ

(且つ) 始終を記さんと欲す

詩圖に補闕在りて

景情而折衷

景情 而折衷す

極山古今蹟

極山(四極山) 古今の蹟

宛在卷懷中

宛も卷の懷中に在るがごとし

乙酉二月題(明治十八年)

四極山新道圖(落款)

【解説文】

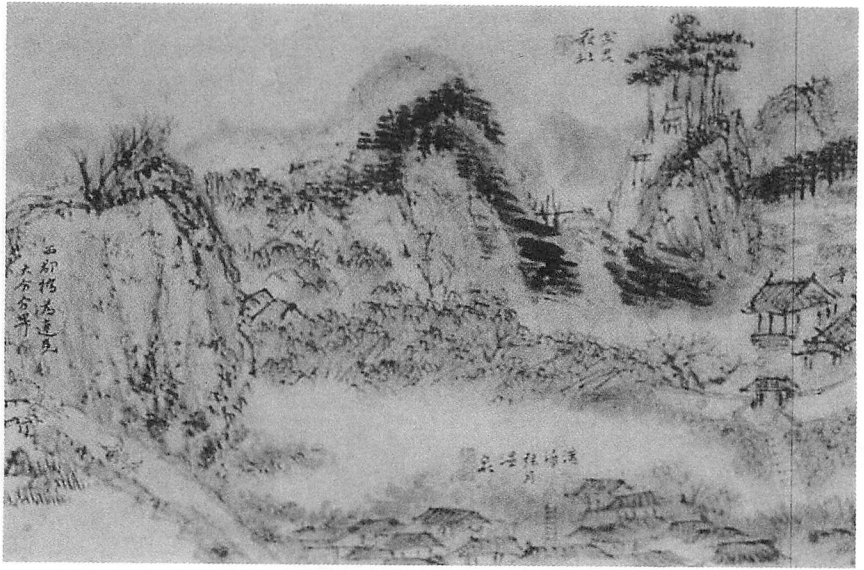
四極山大友氏の撰る所なり。その山下新道、明治の初め日田知県松方公と、熊本藩謀り開創する所なり。齒白港、明治十四年、大分豪商相謀り築く所なり。隧道、仏崎山下海潮路を浸し、往來の旅人数の艱難を経る。囊時仙の越、後に親不知の險、僧某白壁を以て仏名を大書す。巖間冥祐を恃るを以て、因つて仏崎と称す。森下県令、その巖腹を洞き隧道を設け、以て龍王龕とす。土人、早の歳雨を祈り会合せしや。山下巨岳上に突起數十尺在り、頗る奇絶を為す。

一法師大友能直幼名能有、源頼朝の庶子なり。

建入中鎮西奉行と為り、四極山に來り城く。

大友貞宗、具簡公と称す。正慶中、兵を率い伯州に赴き、

勤王に功有り。後醍醐天皇之を嘉し、錦旗を賜う。



「四極山新道図」右端部分：浜湧弦月温泉

大友義統、鷹房丸と称す。文祿中、朝鮮役に大奮戦、李如松を擒え、その王宮を陥す。

大友義鎮、菊池武経を撃ち之を破り、遂に其の族を滅す。

大友貞載、貞宗二男なり。筑前立花山に城き居す。此れ実は柳川公の祖なり。

浜湧村、俗に浜脇と称するは、邦音相通するを以てなり。

往昔、神武天皇日向を発し、早吸小戸に至り、不はからず予も一

老翁有り。白もろして言う。此の地を距て地坤先方の海浜に

温泉湧出、此れに浴すれば、則ち疾療（しついで）べき

なり。早吸即ち今の佐嘉関にして、翁は即ち椎根津彦、

関の大明神なり。

弦月池温泉（東の湯）の名たるや、往古、陽明天皇皇子

なりし時、此の地に来たり浴す。御詠和歌有り。三日月

の句故、名を得ると言う。

二月尽日天方に微雪、春寒肌を透し、凍を呵す。毫

（筆）を把り、以て詩意の字を注す。極めて洪縮、他日を

待ち

書を改めんとす。

菡か西舎主小憲（落款）



「四極山新道図」左端部分：かたん港

<p>村醪法酔氣差豪 不厭山颯透敵袍 絡土英雄争此地 今宵風月属互曹 寒湖触石波既碎 春烧凌雲火路高 一隊包従前壑出 群猿求食夜嘈々 一夜带醉散步于 四極山上下口占得 此詩記以填餘白 布岳生（落款）</p>	<p>村の醪<small>ろうぼ</small>法（どぶろく）酔氣差豪し 山颯敵袍<small>さんひょうへいぼう</small>（破れ着）透すを厭<small>いと</small>わず 土（地）を絡<small>め</small>り英雄此の地を争う 今宵風月は互いに曹<small>とも</small>して属<small>ま</small>る 寒潮石に触れて波既に碎く 春烧（野烧き）火路高く雲を凌ぐ 一隊前より包めば壑<small>たに</small>に出ず 群猿食を求めて夜嘈<small>そう</small>々たり 一夜、酔いを帯び<small>こ</small>に散步す 四極山上下に口占を得 此の詩記以て余白を填<small>う</small>む</p>
---	---